

執筆者紹介

上岡治郎

経歴

大正十五年三月十八日生まれ
松山市日の出町出身
昭和二十年九月愛媛師範学校卒業

職歴

昭和二十年十月一日、上浮穴郡参川西国民学校に勤務(四・六年)
温泉郡神和村想和中学校(一年)
松山市清水小学校(七年)
愛媛大学附属小学校(十二年)
松山市教育委員会(二年)
松山市湯築小学校(二年)
松山市三津浜小学校教頭(四年)
上浮穴郡参川小学校校長(三年)
松山市素鷲小学校校長(五年)

主な著書(共著を含む)

附属小学校「八十年史」
愛媛の少年たち
日本新教育百年史
郷土史みつはま・和気のおもかげ
小田のむかし話・伝説
ふるさと参川・ふるさと素鷲

退職後

松山市の児童館に勤務し、後に留守家庭児童のための施設「児童クラブ」を、各校区に設立するために努力する。

県立図書館の読書指導や郷土めぐりを実施する。現在は、明治以降の「愛媛県教育史」を執筆中である。
伊予史談会会員

山崎善啓

経歴

大正十五年四月三日生まれ
高知県幡多郡大月町出身
昭和二十三年から松山通信局に勤務、伊予三島郵便局長、四国郵政局人事課訓練課長、同局文書課長、高松郵便局長、四国郵政研修所長などを経て昭和六十一年退職、退職後、通信事業史、交通史や郷土史研究に入り、伊予史談会に入会

主な著書

四国地方郵便創業史料の解明
四国郵政局五十年の歩み(共同執筆)

四国郵政研修所五十年の変遷
四国郵政の先人・加藤雄一伝
明治の郵便・電信電話創業物語・愛媛版
住友の四阪島と四坂郵便局
日本郵政公社四国支社管内歴代幹部名鑑
朝敵伊予松山藩始末―土州松山占領記―
瀬戸内近代海運草創史

現在

歴史研究会会員
伊予史談会常任理事
郵便史研究会副会長
社会保険センター歴史講座講師

大野慶一

経歴

大正十五年三月三日生まれ
愛媛師範学校本科三年卒業
昭和二十一年から愛媛県教育委員会に勤務。新居浜市西中学校教諭。
昭和二十八年より愛媛大学教育学部附属中学校教諭。愛媛県教育委員会事務局指導主事を経て、総務課係長、義務教育課指導主事となり昭和五十年四月砥部中学校校長となる。更に昭和五十四年愛媛大学教育学部附属中学校副校長となる。

昭和五十八年松山市鴨川中学校校長となり、六十一年三月退職

職歴

六十年四月より、愛媛県史編纂委員となり、県史人物編を編集、更に、日赤事務局の顧問として勤務、昭和六十四年、松山市埋蔵文化センターの考古館長として五年余勤務その間、松山大学非常勤講師として、八年勤務、昭和六十四年より、愛媛県の社会保険センターの歴史講座、人物講座の担当講師として勤務中

主な著書

中学校社会科の人物指導
社会科指導のあり方
社会科教育史資料

歴史教育学事典

現代教育目標事典
歴史における人物事典
その他教育現場の指導に関する著書多く、主なもののみ記す。

現在

伊予史談会常任理事(監査理事)
社会保険センター生涯教育文化財探訪
社会保険センター常任講師
愛媛県生涯教育指導講師

岩井 昭

経歴

昭和四年四月四日生まれ
松山市出身
昭和二十六年愛媛県の教員になり、平成二年三月退職
その間に小学校・中学校・松山市教育委員会に勤務
松山市教育委員会指導主事
松山市興居島中学校校長
松山市椿中学校初代校長
愛媛国語研究会会長を歴任

退職後

元セキ株式会社社長室長
伊予史談会会員

執筆を終えて

思うこと

上岡 治郎

一、はじめに

『待望の「松山市文化協会」が設立されたのは、平成六年三月二十二日です。

そして、五月十五～二十二日にかけて「文化講演会」、「市民会館ロビー展」、「二之丸薪能」、「松山文化の集い」などの創立記念行事が開かれたのです。』

以上は、今回「松山市文化協会」の歴史を訪ねていて見つけたものです。

そして、季刊・文化情報松山『きらめき』第一号が発刊されたのは、平成六年夏号からでした。

しかし、私たちが原稿執筆した『松山 おもしろ人物伝』はその三年後の平成九年秋号第十四号からです。

そして、その第一号を書いたのが私でした。

連載へ松山おもしろ人物伝①
開拓期のアラスカで活躍した
和田重次郎とその母セツ

二、原稿執筆の原点

私が原稿を執筆するようになった原点は、教員生活最後の五年間を、母校である素鷲小学校に校長として勤務したことにあります。

私は勤務の暇をみても、少年時代の思い出のいっぱい残る石手川土手を、そして校区を歩き、「地域に根ざす教育」を学校経営の根幹に置き、特に郷土の偉人の発掘に心がけました。

そして、その人物を教材化し、私の後輩である素鷲の子供たちに教えていったのです。おかげで、子供たちはすくすくと伸びてくれました。



素鷲の子供たち

三、原稿執筆の依頼を受ける

こうして、昭和六十一年三月、無事退職。そして伊予史談会に入会して郷土史の研究を続けていたところ、五百木飄亭のご遺族や、

和田重次郎の小説を書いた、作家谷有二氏との交流が始まったのです。

そして、伊予史談会を通して、私に執筆依頼が来たのである。

そして執筆陣には、伊予史談会の大野慶一氏と山崎善啓氏。

伊予史談会員以外では、岩井昭氏にご無理を言って一回だけ書いて頂きました。岩井氏はこれが縁となつて、後に伊予史談会に入会してくれました。

四、「きらめき」を読み返して思うこと

① 人名には読み仮名が必要である
(上岡治郎)

- ① 和田重次郎とその母セツ
- ② 柳原繁太郎
- ③ 五百木飄亭
- ④ 山路一遊(一)
- ⑤ 山路一遊(二)
- ⑥ 村上壺天子
- ⑦ 大原観山・加藤拓川
- ⑧ 正岡子規
- ⑨ 秋山兄弟と子規・拓川・定謨
- ⑩ 野村朱燐洞
- ⑪ 近藤我観
- ⑫ 松垣伸
- ⑬ 前田伍健

(大野慶一)

- ① 鶴久森熊太郎
- ② 桜井忠温・水野広徳
- ③ 松平定道
- ④ 松平定直
- ⑤ 松平定昭
- ⑥ 明月と蔵沢
- ⑦ 三輪田米山と三兄弟
- ⑧ 下村為山
- ⑨ 石田波郷
- ⑩ 船田ミサヲ

(山崎善啓)

- ① 加藤雄一
- ② 石崎平八郎
- ③ 浅野市長・赤木郵便局長
- ④ 多田不二
- ⑤ 渡部七郎
- ⑥ 松平勝成・定昭父子(一)
- ⑦ 松平勝成・定昭父子(二)
- ⑧ 小林信近
- ⑨ 新田長次郎
- ⑩ 羽藤榮市
- ⑪ 井上正夫

(岩井 昭)

- ① 高市次郎

② 私の文章でまちがいを探す

(34ページ) 二段目右から五行目

(誤) 加藤拓川骨↓(正) 拓川居子骨

* 一段目左端に加藤拓川の写真を載せたが残念ながら文字が見えにくいために、このような間ちがいをしたと思われる。なお、

この写真の説明も「拓川居士骨」と訂正のこと。

(77ページ) 二段目の人名

(誤) 南松↓(正) 南嶽

(83ページ) 二段目の人名

(誤) イク↓(正) ウメ

* ただし、漢字で梅と書いている本もある。

九年間、三十五回の文章を読み返してみると、執筆者それぞれの職業や研究の違いによって個性豊かな読み物になっている面もあるように思います。